令和２年度　第１回四街道市みんなで地域づくり推進委員会議事録（概要）

日時　：令和２年７月６日（月）午前９時20分から午前11時20分
場所　：四街道市役所新館１階　四街道市みんなで地域づくりセンター
出席者：大下委員長　中山副委員長　関委員　田中委員　金子委員　賀川委員
欠席者：なし
事務局出席者：永易経営企画部長　荒巻政策推進課長　舩津課長補佐　齋藤係長
橋本主事　石田主事　勝又副代表理事（NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ）
傍聴人：０人
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場を２か所に分散し、Web 会議システムを使用して開催

――　会議次第　――

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 経営企画部長あいさつ
4. 委員長及び副委員長選出
5. 議事
   (1) 令和元年度地域づくりコーディネーター業務報告
   (2) 令和２年度地域づくりコーディネーター業務計画
   (3) みんなで地域づくり事業提案制度（令和元年度実施）事業ふりかえり
6. その他
7. 閉会

開会
事務局（荒巻）：ただいまから、令和２年度第１回四街道市みんなで地域づくり推進委員会を開催します。

委嘱状交付
（事務局より各委員に委嘱状を交付）
経営企画部長あいさつ
（経営企画部長よりあいさつ）
（事務局より委員紹介及び事務局職員紹介）
委員長及び副委員長選出
（委員の互選により、委員長に大下委員、副委員長に中山委員を選出）

大下委員長：議事に先立ちまして、会議録における発言者名については、「審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により、原則として明記することとなっていますので、本委員会においても明記する取扱いとしたいと思いますが、委員の皆様のご意見をお伺いします。

委員全員：（異議なし）

大下委員長：会議の公開・非公開につきましては、議事運営に支障が認められる場合は非公開になりますが、本日の議事内容におきまして支障はないものと考えますので、「審議会等の会議の公開に関する指針」の「3. 会議の原則公開」の規定により公開とし、入室を認めたいと思います。
また、会議資料については、「審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により、議事次第については、配布するものとされていますが、その他の資料の配布については本委員会の判断によるものとされています。私としては、資料についても配布することとしたいと思いますが、委員の皆様の意見をお伺いします。

委員全員：（異議なし）

大下委員長：傍聴希望の方がいるかの確認をします。事務局、いかがですか。

事務局：いらっしゃいません。

5. 議事
議題（1）令和元年度地域づくりコーディネーター業務報告
大下委員長：それでは、本日の議事に入ります。議題（1）令和元年度地域づくりコーディネーター業務報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局（勝又）：（資料 1-1 に基づき説明）

大下委員長：ご質問等ありましたらお願いします。

（挙手等なし）

大下委員長：特にないでしょうか。それでは、令和元年度分の地域づくりコーディネーター業務報告は終了したいと思います。

議題（2）令和 2 年度地域づくりコーディネーター業務計画
大下委員長：議題（2）令和 2 年度地域づくりコーディネーター業務計画について、引き続き事務局から説明をお願いします。

事務局（勝又）：（資料 1-2 に基づき説明）

大下委員長：コロナ禍で、今後どのような形で感染を予防していくかを十分に考慮されたうえでスケジュールを組んでいただいたのだと感じます。また、関委員や田中委員には、さまざまな面からコーディネーター業務にご協力いただいていることに感謝申し上げます。
感染予防の観点から中止を余儀なくされた事業もあります。感じていることやご助言等いただければと思います。

関委員：先ほどのご報告にもありました通り、私はみんなで地域づくりセンターのファンドレイジング講座の講師をさせていただきました。みんなで地域づくり推進委員としていつも審査させていただいている中で、補助金終了後の団体がどうなっているかについてずっと懸念を抱いていました。コラボ四街道事業は素晴らしい活動ですし、ぜひ継続的に実施していただきたいと思います。そのためには資金が必要だということで、講座でファンドレイジングについてのお話をさせていただきました。参加者の方は熱心にお話を聞いてくださって、寄付集めをしていきたいという思いを持たれた方が多かったと感じました。そのため我々も、団体が補助金終了後に自立して地域で活動を継続するための方法のひとつに寄付集めがあるというのを頭に入れながら団体を応援していく必要があると思いました。

金子委員：9 月にあるコラボ塾について、コロナ禍の中、団体がどの程度の数集まるかが気になります。

事務局（勝又）：コロナ禍の中でも、みんなで地域づくりセンターでは、ファンドレイジング講座を 2 回実施しています。感染に気を付けながらも場を設けていく方向になってきています。コラボ塾についてはチラシを作成して広報をしたいと考えています。第 1 回目は公開講座ですので、コラボ四街道に申請しない一般の方も含めて、地域づくりに関心をもっていただきたいと思います。

事務局（齋藤）：市民団体の中には、自粛期間中に何か月か活動を休止した際に、自分たちの活動は本当に必要なのか、地域に必要とされているのか、という活動を見つめな

おす声もありました。このような際に自分たちの活動をしていてよいのか、活動への情熱が自分の中で維持できない、というような声もありました。コラボ塾や、その後に続くコラボ四街道への申請なども、今だからこそ地域に必要とされる形というのをこちらでも示し、モチベーションの向上を目指していかないと、この状況下での行動の優先順位として、市民活動が上位にこないのではないかと感じています。
例えば、みんなで地域づくりセンターでは、現在オンライン支援を手厚く行っています。今だからこそできる支援や市民活動の形を示していきながら、市民活動を盛り上げていきたいと考えています。

田中委員：私も、地域の皆さんと一緒にしていた地域づくり活動はしばらく中止にしていましたが、先週、みんなで地域づくりセンターのコーディネーターと一緒にワークショップを行いました。新しい生活様式の中で、とても注意が必要な時でしたが、参加者の皆さんは不安はありつつもやる気があり、やっとできてよかったという思いがあるようでした。担い手の方々が、コロナ禍で自粛している間にやる気が落ちてきてしまったという話も数多く聞きました。高齢の方々にとっては、介護予防という観点から、地域づくりが健康維持につながっていたということもあるので、今できる形で、みんなで地域づくりセンターと一緒に地域づくりを進めていけたらと考えています。

中山委員：コロナウイルスに対抗することは命を守る戦いなのですよね。また、それに関連して子どもを取り巻く状況も非常に厳しくなってきています。ですから、普段活動している様々なボランティアがこの時期は活動ができないというのはやむを得ないことではないかと私も思っています。ただ、いつから再開になるか、また再開にあたっての情報発信をどのような形で行っていくのか、ということが今後大きな課題になってくるのではないかと考えています。ですから、市民の皆さんに事業の再開を知らせる情報発信のあり方について事務局はどのように考えているか教えていただきたいです。

事務局（齋藤）：広報などの情報発信については、コロナ禍において、我々にできることとできないことを整理して考えなければならないと考えています。広報誌やホームページなどの広報については引き続き行っていきます。今だからこそできる支援、例えばオンラインの情報発信の支援などは、みんなで地域づくりセンターを中心として行っているところです。市役所で行ってきた支援と、みんなで地域づくりセンターでこれから行っていこうとしている支援を上手く組み合わせていきながら、市民活動やNPOの支援をしていきたいと思っています。

中山委員：本当に必要な方に情報が届くように、様々な面で連携していただければと思っています。

大下委員長：市民の方々から様々なお問い合わせがくる可能性があるのですよね。WEB会議システムなどを使用したリモート環境の整備は、政府が言っている新しい生活様式、働き方改革になり、企業に勤めている方々には良い環境が整っていくことが予想されています。一方で、市民活動は、リモート環境を活用した方法というのもひとつはあるのですが、身近なところでの対面の声掛けなどは、感染対策があることでなかなかできないところがあります。地域づくりと感染防止を両立させる道を探っていかないといけないと思います。千葉県内で地域活動が盛んである四街道が先進的なモデルとして作り上げていかないといけないという状況もあると思うので、引き続き市役所の方々とみんなで地域づくりセンターの皆さんにはご尽力いただきたいです。また、世の中では出所不明の噂が広まっていますので、情報源を明らかにし、情報の一元化をすることが大事だと思います。今は事業をどう実施していくか、また、第二波、第三波があった際にどうするかというのを模索する段階だと思うので、引き続きお願いします。

・議題（3）みんなで地域づくり事業提案制度令和元年度実施）事業ふりかえりについて

大下委員長： それでは、議題（3）みんなで地域づくり事業提案制度（令和元年度実施）事業ふりかえりについてに進みます。
令和元年度に実施した12事業について、本日は事務局の方からご報告いただきたいと思います。みんなで地域づくり事業提案制度「コラボ四街道」は、市民団体等から提案を募集し、審査を経て採否を決定した事業に補助金を交付する制度です。事業ふりかえりについては、昨年度コラボ四街道事業実施団体から提出された事業報告書類をご覧いただき、事務局から代理報告をしていただいたうえで、委員の皆さんから客観的な視点でのご意見をいただきたいと思います。特に大事なのは持続性、継続性と考えていますので、そういった観点からも、ご意見いただければと思います。

それでは、お手元に、資料3のコメントシートと資料4の事業報告書類のご用意をお願いします。資料3につきましては、委員会終了後にご提出していただきたいと考えています。昨年は12事業が採択されています。資料4の事業報告書類に基づき事務局より1事業ずつ報告していただき、4事業ごとに、質疑応答やご意見のお時間をとりたいと思います。資料3のコメントシートのコメント欄には、今日の議論を踏まえて気になった点をご記載ください。それでは、事務局より簡潔にご報告をお願いします。

事務局（石田）：（資料4に基づき、四街道こどもまちづくりプロジェクト実行委員会/四街道・科学未来からくり倶楽部/四街道あそびっこ基地/やまなし「月見の里」づくりの会について説明）

大下委員長：やまなし「月見の里」づくりの会が令和２年度のコラボ四街道に申請していないのには理由があるのでしょうか。今後も実施していく予定の事業についても、資金が足りなければ資金援助、メンバーが足りなければ人材のマッチング等が必要だと思いますので、継続性の観点から確認したいです。

事務局（橋本）：今まで申請してきた補助金の大部分は大規模な整備に係る経費として使用していましたが、それが終了したので申請はありませんでした。今後は自力で活動し、小規模の整備は団体で引き続き行っていきます。

関委員：事務局にお願いしたいことがあります。3 年目の事業について、イベント参加者の推移等、経年の変化を見られるようにしていただきたいです。

事務局（齋藤）：経年の変化が分かる資料についてはあった方がよいと思いますので、どういった形でまとめるかについて、検討したいと思います。

関委員：3 年が終わっている団体がどうなっているかについても、どこかで共有してディスカッションできる場があるとよいかと思うので、よろしくお願いします。
四街道こどもまちづくりプロジェクト実行委員会についてです。この事業は最終年度ですが、収支決算書での補助金使用の割合が 65％でした。また、各団体等から資金援助を得ながら実施するとありましたが、協賛金の決算額は、予算額に比べて低くなっています。補助金終了後の展望はどのようになっているのでしょうか。

事務局（齋藤）：令和２年度からは、鷹の台自治会や地区社協から、地区の事業の一環として補助金を得て実施しています。コラボ四街道の補助金と比べると金額の差はありますが、新しいコラボレーションの中でできることをしています。コラボレーションによって理解を得られる企業、地区、商店などがあるかと思いますので、新たな形での実施を検討していけたらよいのではないかと思います。現在は、予算を極力かけずに、リモート形式での実施を模索中です。

関委員：やまなし「月見の里」づくりの会についてです。事業内容に、里山を地域の家族が集う場所とするといった内容がありました。5ページ目に活動報告はあるのですが、整備した後の里山にはどれくらいの人が集まっているでしょうか。

事務局（齋藤）：現状、整備は完了しておらず、まだ時間がかかりますが、整備作業の過程も含めて地域の方を巻き込んで活動しています。活動報告の中で、四街道フォレス

トと書かれている日は、専門家の整備作業の日であり作業員の数だと思いますが、書かれていない日は、会員の方やイベントの参加者の数だと思われます。会員や子どもたちでできる整備作業は、専門家の整備作業とは切り分けて実施しています。

金子委員：4 件とも現場を見てきましたが、採択してよかったと思います。成功している例だと感じます。

事務局（石田）：（資料 4 に基づき、ちょこっとクラブ[地域づくり部門]/ ちょこっとクラブ[拠点づくり部門]/ 四街道こども記者クラブ/子ども商店街実行委員会について説明）

賀川委員：今年度のすべての事業について言えますが、コロナ禍で実施ができない事業があった場合の事務局からの働きかけはありますか。

事務局（齋藤）：事務的な面ですが、昨年度の事業については、こども記者クラブ以外はさほど大きな影響はなかったため、補助金の交付確定はできています。今年度の事業に関しても、補助金の交付決定は順次行っていますが、概算払いは状況を見極めて申請していただくようお伝えしています。

大下委員長：先ほどの地域づくりコーディネーター業務報告の中でもあった中止の判断というのは、みんなで地域づくりセンターが独自で判断したものですか。それとも相談したのでしょうか。

事務局（齋藤）：その時の市の方針に沿った形で、場所や人数を勘案して、市とみんなで地域づくりセンターで協議しました。

大下委員長：方針については今年も変わらないのでしょうか。

事務局（齋藤）：市で新型コロナウイルス感染症に関する方針について示されたものに基づいて、みんなで地域づくりセンターの開館について等の対応もしていきます。

大下委員長：その際、団体は市とみんなで地域づくりセンターのどちらに相談すればよいでしょうか。

事務局（齋藤）：基本的には市です。みんなで地域づくりセンターの方も団体のコーディネーター役を担っているので、団体がお話しやすい方から入っていただいています。

みんなで地域づくりセンターには、団体からの相談があったら事務局に随時情報共有していただき、補助金の運用関係の話は、最終的には市役所で受けています。

大下委員長：賀川委員が心配している部分として、事業をしてよいのかどうか、という部分があると思います。そういった際に、質問・相談ができる場所がどこなのか、どこが情報源なのかというのを、みんなで地域づくりセンターの方でもしっかりと認識していただきたいです。新型コロナウイルス感染症について、どのように対応していくのかを最終的に決定するのは市になると思いますので、情報を審査しながら実施していくことになるかと思います。
ちょこっとクラブはかなり大がかりな改修をしましたが、金子委員は行かれましたか。

金子委員：行きました。拠点整備として、相当な金額を申請していたので若干危惧していましたが、きちんと活用されていました。自治会館くらいの規模で使いやすく、何よりも代表の熱意があるからか、ボランティアの方も熱心です。今後とも発展してくのではないかと思います。成功した例だと思います。

事務局（石田）：（資料４に基づき、子ども商店街実行委員会、YSGG バンド、てとて～つながる支援の輪～、たろやま会、ハニー＆アップルについて説明）

大下委員長：今年度のコラボ四街道の申請がなかった団体について、その理由は何でしょうか。

事務局（橋本）：YSGG バンドは、今年度は体制を整え、機会を改めて申請したいとのことでした。たろやま会は、もともと主な活動については都市計画課の負担金が出ています。昨年度行ったガイドブックの作成は、都市計画課の負担金の範囲内での実施が難しかったため、コラボ四街道事業として実施しました。ハニー＆アップルは、１年間活動して、自立できる見通しが立ったとのことです。

大下委員長：それでは、議題３につきましては、本日の説明や意見交換した内容を踏まえて、委員の皆さんはコメントシートにご意見を記入し、事務局に提出していただくようお願いします。その後、事務局で内容を調整して、最終的に委員長である私が確認し、取りまとめて委員会のコメントとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員全員：（異議なし）

大下委員長：それではそのようにさせていただきます。今年度のコラボ四街道事業は４

事業ありますし、みんなで地域づくりセンターの事業も計画されています。感染症等が恐れられている現状で、事業の中止や延期などは最終的には市の意向が関わってくるとは思いますが、委員会として、言い残しておきたいことがあればお願いします。

中山委員：コラボ塾について、新規の参加団体を開拓していただきたいです。コラボ四街道は 10 年近く続いているものなので、これまで取り組んできた中で、市民に根付いている成功事例や、途中で挫折してしまった事例、補助金の交付が終了しても自立して活動している事例等を分野ごとに総括しておく必要があるのではないかと思います。それらをパンフレット等にできれば、団体がそれを参考にし、コラボ塾への参加も増えていくのではないかと思います。

大下委員長：コロナ禍で悩んでいる団体も多いと思います。相談に乗り、状況を客観的にお伝えできるように気を付けて、市やみんなで地域づくりセンターで万全の対応をとれるようにしてください。市民団体の皆さんがどのようなことをいちばん心配しているのかということについてもヒアリングをしていただき、また、中山委員からの意見にもあったように、今までの事業を分類して、次回以降の委員会で報告していただけるとありがたいです。それでは、以上で議事を終わらせていただきます。

6.その他
（委員や事務局から、WEB 会議システムを使用した会議についての感想等）

7.閉会
事務局（荒巻）：それでは、令和 2 年度みんなで地域づくり推進委員会を閉会したいと思います。ありがとうございました。